

公益財団法人軽井沢美術文化学院

2022 年度事業報告書

1. 美術館の運営（公益事業 1）

2022 年 6 月 11 日（土）～11 月 13 日（日）の間、『続・西村伊作の理想の学校 文化学院 戦後の再興と芸術教育の継承』を開催した。生徒一人ひとりの個性と思想を育てる新しい芸術教育を目指して大正 10 年に開校した文化学院は当時一世を風靡したが、太平洋戦争がはじまると、校長西村伊作の自由な発言や文化学院の自由主義の教育は国是に合わないと思われ、校長は不敬罪の容疑で逮捕され学校は 1943 年に強制閉校を命ぜられ校舎は陸軍に接収された。終戦とともに伊作の刑はなくなり、校舎も返還されると、一年も待たずに伊作と子供たちは卒業生たちの協力を得て、1946 年 4 月に文化学院を再開校する。22 年の企画展は、戦中の縛りから解放された社会で再興した文化学院の教育の歴史をたどり、それに携わった子供たちと講師たちの功績や作品を紹介した。

1) 企画展

〈第一室〉は西村伊作に関する紹介と作品を主に展示。彼の生い立ち、絵画、陶芸、書籍、手掛けた建築を紹介、ライフスタイルや子供の教育と文化学院について写真と展示パネルで紹介。

〈第二室〉戦後再開校した文化学院の歴史を、パネル、写真、メモや手紙、発行雑誌等で紹介した。校舎が返還され文化学院を再開校するまでの伊作の思いが綴られたメモや手紙、再開校当時の時間割、伊作の子供たちが講師として学校に戻り新設した科やコース歴史とその成果物などを展示した。

今回新しい試みとして、文化学院で行われた講義録音を YouTube チャンネルで限定公開し、館内展示と図録にある QR コードをスマホで読み込むと聞けるようにした。1962 年の伊作の講義録音のほかに、1971 年から年に数回開催された公開講座に招待講師として来校した羽仁五郎、野坂昭如、寺山修司、柳宗理など 10 名分の講義録音をアップした。

〈第三室〉戦後の文化学院には西村八知、村井正誠、戸川エマなど伊作の子供たちや卒業生をはじめ、佐藤忠良、斎藤寿一、荻太郎、猪熊弦一郎、今泉篤男等さまざまな芸術家、学者や文化人たちも講師として文化学院流の芸術教育に携わり、彼らの作品を紹介した。

9 月 24 日土曜日にギャラリーレクチャーを開催。

「滅びゆく日本語 その細道をたどれば」 辻原登当財団代表理事に講演いただいた。聴講者は 25 名。初の試みとしてこのレクチャーをライブ配信し、来館できない人が YouTube チャンネルでレクチャーを聴講できるようにした。配信映像はレクチャー終了後もチャンネルに残してみられるようにしている。

With コロナの生活スタイルに慣れてきたこともあり、観光客、来館者もすこしずつ戻ってきた。8月10日は第7波真ただ中ではあったが美術館入館者が最も多く45名だった。10月18日には共立女子大の団体見学があった。

総入館者数は1,640名。

2) カフェプレオープン 4月29日～5月8日

2021年より大型連休中はカフェとショップのプレオープンのみとしている。

カフェとショップの売り上げは約680千円で前年より300千円の増加となった。

また5月にはフライダルのため美術館を貸出した。

3) ローズフェスティバル 6月18日～7月3日

バラが見ごろの「ローズフェスティバル」では、スタッフに庭の様子を撮影してもらい、SNSで宣伝をした。美術館入館者はカフェの100円割引とした。この期間の入館者数は131名。

4) 秋のアートフェスティバル (第16回) 10月9日

恒例のイベント。入館無料とし、中学生以下の子供にはクレヨンとスケッチブックをプレゼント。当日スケッチした作品を預かり、閉館までカフェの壁に展示した。美術館入館者は30名。

5) サマーコンサート

以下のコンサートを開催した。

- ① 7月16日(土) 山口佳子ソプラノコンサート
- ② 7月23日(土) 気軽にクラシック オペラの午餐 in 軽井沢
- ③ 7月31日(日) 林徹也 ギョルギーボグナー コンサート
- ④ 8月7日(日) 近藤和花 ピアノコンサート(第11回)
- ⑤ 8月13日(土) ボサノバ/サパトス(木村純・三四郎)(第14回)
- ⑥ 8月20日(土) 戸室玄ピアノリサイタル
- ⑦ 8月23日(火) JCアコースティックス ジャズ ポップス セミクラシックの名曲ライブ
- ⑧ 8月27日(土) 寺田悦子・渡邊規久男/四手連弾ピアノコンサート
- ⑨ 9月3日(土) 風のそよ風 コンサート
- ⑩ 10月23日(日) 秋の贈りもの リコーダー三重奏
- ⑪ 10月29日(土) Breeze ライブ

2. アトリエの運営(公益事業2)

2022年は以下のイベントを開催した。

① 陶芸教室 3回開催

7月30日・31日

8月20日・21日

9月18日・19日

4年目となり、リピーター率がかなり高いワークショップ。メニューも午前は深めの器、午後は浅い器としているので、連続受講者もいた。一回8名までで、ほぼ毎回満席であった。

② 夏休み染めの実験教室 8月8日・9日 8月17日・18日

20年から始めた染めの実験教室。講師は立花万起子学芸員がつとめた。ルヴァンの庭の植物で染料をつくり、絹のハンカチ染めを行う。今年は庭中央にあるコナシの枝葉で染料を作った。一回4名までの参加で、だいたい2〜3組の参加だった。大人向けには大判のストール染めを用意した。

③ 木工教室 8月11日〜15日

講師：永島秀之 鳥の巣箱づくり。リピート率の高いワークショップ。

④ ウィンターオーナメント作り 10月8日

講師：大谷香先生

参加者19名 ルヴァンの庭の植物を主に使ってハロウィン、クリスマス、お正月と使える飾り（スワッグ）をつくる。リピート率高いワークショップで、キャンセル待ちリストができたほど。

22年はワークショップ開催情報をイベントチラシ一枚に集めたところ、早々と予約が埋まっていった。陶芸教室とウィンターオーナメント作りはライブ配信してみた。イベント参加料361千円の売り上げであった。

⑤ アトリエ貸し（6日）

文化、教育のためのイベントにはアトリエの貸し出しを行っている。

- 4月30日（土）・8月4日（木） 軽井沢の景観を守る会 講演会（無料）
- 7月9日（土）・10日（日） ルヴァンキッズ教室（有料）
- 8月28日（日）・11月3日（木） 学び場を検討する会ワークショップ（有料）

3. 宿泊施設の運営（公益事業3）

これまで学生寮として運営してきたが、2018年3月の文化学院閉校にともない、美術館付属の宿泊設備と登録変更し認可された。

3つあった4人部屋をシングル1部屋とツイン2部屋に改装し2階にもトイレを増設。美術館での演奏家、アトリエの講師が主な利用者となる。卒業生、文化学院関係者、一般の方の宿泊利用も受付ており、240千円の売り上げがあった。

4. ショップ、カフェの運営（収益事業）

ショップ売上は 1,183 千円で昨年度 967 千円から若干の増加となった。

カフェの売り上げは 7,268 千円（前年 5,325 千円）と 36%増と大幅に伸びた。美術館庭園の雰囲気癒しの空間として来館者を惹きつけており、カフェメニューも味と値段ともに好評で新しいものも加わっているのでリピーターは順調に増えていると思われる。

5. その他

文化庁の補助金申請

文化施設の活動継続・発展等支援事業に文化庁の補助金を申請した。対象は配信事業で、

- 美術館の Wi-Fi 設備増設工事
- ライブ配信関連機材の購入
- ライブ配信のサポートとデータ編集スタッフの賃金

に対して 62 万円の補助を受けた。

他の団体への寄付

国の重要文化財に指定されている新宮の西村記念館については、「西村記念館を守り伝える会」に本年度も引き続き維持、保全のため 10 年目の 10 万円の寄付をした。また新たに同市が保全のために購入した西村伊作が建築したチャップマン邸についても、維持、保全のため昨年度に続き 10 万円の寄付をした。

6. 評議員会、理事会

まだ新型コロナの影響もあったため、対面の会議は行わず全て書面による決議を行った。

以上